



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

ラット大腸発癌過程のアラキドン酸カスケード系酵素発現と化学予防剤の修飾作用

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉見, 直己 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/293

はしがき

本研究は、当教室で開発した炎症性変化特に潰瘍性大腸炎様病変を呈する大腸発癌モデルを基にした癌遺伝子および癌抑制遺伝子の変化を追うとともに、情報伝達系に関与するアラキドン酸カスケード系やサイトカインの発癌過程への関わりを調べたものである。従来の直接的な発癌物質による細胞障害による発癌過程機序に加えて、炎症を含む生体反応というヒトの防御反応と発癌との関係とそのバランスの重要性が示されたものと考えている。癌の化学予防物質の発見と機序解明は現在発癌研究者間でもっともホットな話題の一つであるが、特に本研究ではアラキドン酸カスケード系酵素のうちシクロオキシゲナーゼ抑制物質による発癌抑制への修飾を検討した。

加えて、ラット大腸発癌モデルにおける不死化に関わるテロメラーゼについても検討し得た。これは、ラットでのテロメラーゼ発現に関する最初の報告となった。

ここに、一般研究(C)、現、基盤研究(C)「ラット大腸発癌過程のアラキドン酸カスケード系酵素発現と化学予防剤の修飾作用」に対する文部省科学研究費として受け得た研究補助金での平成7年からの3年間の上記のごとき成果を報告書にまとめたが、御批判、御助言を賜れば幸いである。

研究組織

研究代表者： 吉見 直己 (岐阜大学医学部病理学第一・助教授)

研究分担者： 森 秀樹 (岐阜大学医学部病理学第一・教授)

研究経費

平成7年度	900千円
平成8年度	900千円
平成9年度	600千円

計 2,500千円